

TOPICS



県庁前で行われた発進式

介護機器を展示した『かいごくん』発進！

高齢化が進み、介護は大きな社会的課題になっている。

県では、平成七年度に『岩手県介護実習・普及センター』を盛岡市に設置したが、広大な面積を有する本県だけに、各地域の県民が介護研修を受講し、介護機器に直接ふれる機会を求めている。

三月二十四日、介護機器の普及を図るため、県が導入した、介護機器移動展示車『かいごくん』の発進式が県庁前で行われた。

『かいごくん』は、介護用ベッドや入浴補助具、移動式リフトなど、約一三〇種類の介護機器を展示する五トントラック。地域団体などの要望に応じて県内各地を訪問し、介護機器の利用方法を指導する。介護への理解を深めるため、平成九年度は県内約五十カ所を運行の予定。

岩手県立大学開学に向けて



第6回県立大学開設準備委員会

県では、平成十年四月の開学を目指し、県立大学の開設準備を本格的に進めている。

三月十三日、第六回県立大学開設準備委員会を盛岡市内で開催。船越昭治委員長をはじめ、初代学長に内定している西澤潤一氏など十二人の委員が出席。県立大学設置申請についての最終的な検討や、来年度の開学に向けた今後の準備体制について、審議が行われた。

岩手県立大学は、看護、社会福祉、ソフトウェア情報、総合政策の四学部で盛岡短期大学部と宮古短期大学部からなる短期大学部の構成となる予定。

TOPICS

TOPICS



増田知事から修了証が手渡された

学んだ技術を、岩手から母国へ

岩手県では国際交流の一環として、発展途上国や本県出身者のいる南米移住国から農林水産関係などの技術研修生を受け入れている。

三月二十四日、平成八年度県費留学生と海外技術研修員の修了式が県庁で行われ、増田知事から修了証が手渡された。

当日は、ブラジルからの県費留学生と中国やエクアドルなどからの海外技術研修員十三人が出席。全員がいわて親善大使に委嘱された。

留学生は、昨年四月から一年間、県立宮古短期大学で会計学を受講。研修生は六月から九月月間、民間企業や研究機関で学んでいた。

北東北に新たな時代の到来を告げる、秋田新幹線が開業。三月二十二日、『やまびこ・こまち』の出発を祝い、盛岡駅で『秋田新幹線盛岡駅出発式』が開催された。増田知事ら関係者によるテープカットなどが行われ、開業に併せてオープンした雲石駅・銀河ステーションでも、多くの人で出発式が行われた。

秋田新幹線は、在来線の軌道を新幹線と同じ幅に広げたミニ新幹線方式。在来線を走行する秋田・盛岡間を最短一時間二十四分で結び、盛岡東京間は東北新幹線『やまびこ』に連結。秋田と東京は、乗換えなしで最短三時間四十九分の距離になった。

二七五キロの営業運転を開始した『やまびこ』は、ダイヤ改正で盛岡と首都圏を一日三十往復に増発。もともと速いもので盛岡・東京間が二時間二十一分の距離になった。



基調講演の様子

TOPICS

秋田新幹線『こまち』いよいよ開通



盛岡駅での出発式テープカット

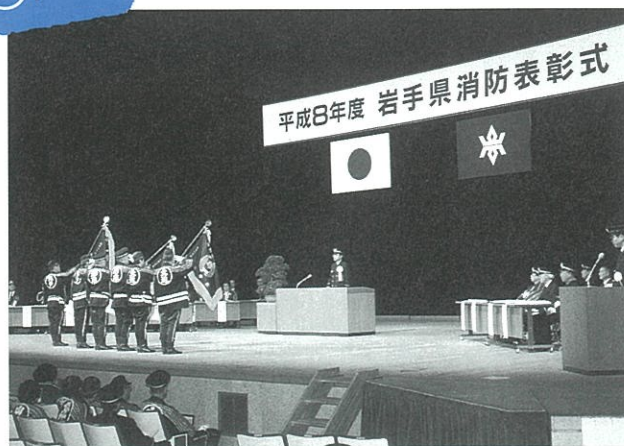
「いわての食文化発信懇談会」第1回懇談会を開催

国際化により、食料産地の競争は国を越え、食料消費は多様化している。食料供給者にとって重要になるのは、従来の生産・供給に加え、流通・販売の視点から、消費者や市場へ働きかけること。県では、県内各地域の『食』の特徴を前面に打ち出し、消費者へ向け岩手独自の情報発信をする。『食の文化発信基地』づくりへの取り組みをスタートした。

『いわての食文化発信懇談会』は、生産・流通・消費・サービス・学識経験者など、各分野二十一人で構成。三月十一日、盛岡市内にあるエスポワール岩手で行われた。第一回懇談会では、基調講演や意見交換などを交え、これからの岩手の食の文化発信について検討。

今後は、年二〜三回の開催を予定している。

TOPICS



平成8年度岩手県消防表彰式

消防に関する功績者を表彰

家財や人命など、大切な財産が失われてしまう火災をはじめとした災害。日ごろからの注意と万全の対策が第一。もしもの時には、消防関係者に期待と信頼が寄せられるものだ。

三月十四日、約千五百人の県と消防関係者が参加した『平成八年度岩手県消防表彰式』は、盛岡市の岩手県民会館で行われた。

この表彰式は、消防活動に功績のあった個人と団体を表彰し、消防関係者の士気高揚を図り、職務遂行の励みとすることが目的。

当日は県知事表彰や岩手県消防協会総裁表彰など、個人九七二人と消防関係二十八団体が表彰された。

TOPICS